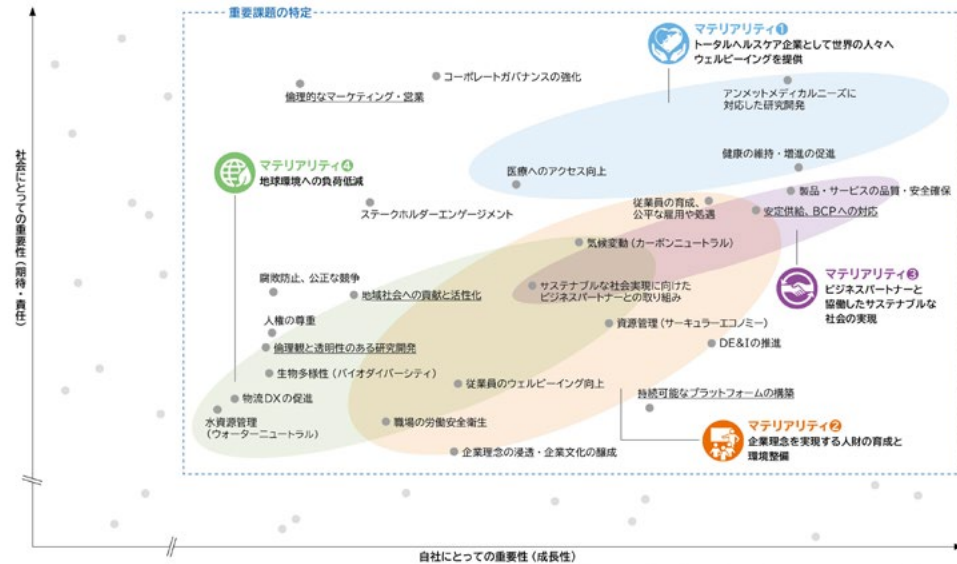


マテリアリティの再特定

大塚グループの課題マップ

マテリアリティは企業が優先的に取り組むべき課題を指します。大塚グループでは、サステナビリティに関連する「社会にとっての重要性」を図るため業界動向、ESG評価機関、NGOを含めた機関や投資家等のステークホルダーのご意見を参照し、社会からの期待や責任という観点から選定しました。併せて、「自社にとっての重要性」として、主要事業会社の課題スコアリング、社員アンケート、ヒアリング等の実施を経て企業における成長性を特定したうえで、課題マップを作成しました。



マテリアリティ:地球環境の負荷低減

大塚グループでは、2024年より開始する第4次中期経営計画に合わせマテリアリティの再評価を行い、4つのマテリアリティの一つに「地球環境の負荷低減」を特定しました。グループの事業特性を鑑みた環境負荷低減の取り組みには、新たに「生物多様性(バイオダイバーシティ)」を追加し、取り組むべき環境課題について目標を再評価、「自己創出型の再生可能エネルギーを2028年までに20%導入する」など新たな目標を追加しました。

2024 - 2028年の環境目標

バイオダイバーシティ: 自然資源の持続可能な安定調達

[2028年目標]

- RSPO 認証パーム油を100%利用
- サステナブルな紙を100%利用

カーボンニュートラル: 地球温暖化による 気候変動の抑制

[2028年目標]

- CO₂排出量の削減
Scope1,2:50%削減(2017年比)
Scope3:2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み
- 自己創出再生可能エネルギー 20%

2050 ネットゼロ
達成に向けた
2028 中期目標

ウォーターニュートラル: 水資源の維持・保全

[2028年目標]

- 水ストレス地域の事業拠点での水利用戦略の立案
- 水資源管理プログラムを全拠点展開
- 水使用量10%削減(2023年比)

サーキュラーエコノミー: 資源利用の抑制・循環利用

[2028年目標]

- 単純焼却と埋立を50%削減(2019年比)
- 食品ロス削減計画の策定と実行

[2030年目標]

- PET ボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の使用割合100%

STEP 1

各種情報を分析し課題リストを作成

STEP 2

社会にとっての重要性と自社にとっての重要性を評価

STEP 3

社会にとっての重要性と自社にとっての重要性、影響度から課題マップを作成

STEP 4

社会にとっての重要性と自社にとっての重要性、影響度からマテリアリティを特定